



たけだメディカルニュース

Vol.23 発行日 平成17年11月1日

発行 武田病院グループ
 京都市下京区塩小路通西洞院東入ル
 TEL 075-361-1351 (代)
 発行人 武田 隆久

理念

思いやりの心

基本方針

ブリッジ・ザ・ギャップス
 患者さんの権利の尊重
 信頼の医療に向けて
 地球にやさしい環境づくり

環境方針

省資源・省エネルギー
 廃棄物の減量化
 リサイクルの推進
 安全性・快適性の推進
 環境広報活動の推進

医療法人財団康生会 武田病院 外科 特集

「消化器外科のトピックス」



京都大学大学院医学研究科
 腫瘍外科学
 坂井義治 教授

増える大腸がん

日本でも、胃がんよりも大腸がんの罹患率が高くなっています。食生活の欧米化、つまり米や魚類を口にすることが少なくなり、肉をはじめとした動物性脂肪を大量に摂取するようになったことが大きな原因と考えられています。

大腸がんに関しては、遺伝や家族歴のかかわりが、胃がんよりも強いと考えられます。特

に、大腸に数百個以上できる多発性大腸ポリープについては遺伝性であることが証明されています。

外科的治療と化学療法

粘膜内にとどまるような早期癌は内視鏡下に切除して治すことができますが、それよりも深く進んでいる癌に対しては、原発巣と周辺のリンパ節を切除することが標準治療です。手術の結果、病理検査でも周囲リンパ節転移が明らかとなった場合には、術後化学療法を受けていただきます。化学療法、つまり抗癌剤治療も新薬の発見や、従来からある薬物の投与方法や組み合わせを工夫することで、その治療成績は徐々に改善してきました。非常に進行した癌で、肝臓や肺に転移があるような場合でも、それが大腸癌の転移の場合は、原発巣と転移巣を切除することにより治る可能性があります。胃癌でそれを期待することは極めて困難です。また、手術により治癒を期待することが困難でも、癌による腸閉塞や、病巣からの出血による貧血を防止するために、つまりQOL(生活の質)を保つためにも外科的な処置が必要となる場合があります。

最近では進行癌の手術成績をさらに改善するべく、周囲リンパ節転移が著しい場合には、手術の前に化学療法や放射線治療を受けていただき、腫瘍を縮小させてから手術をする、いわゆる術前放射線・化学療法が試みられています。

腹腔鏡下手術

腹腔鏡下の消化管手術は腹腔鏡下胆嚢摘出術に比べて、普及は極めて遅れています。日本全国で、胆嚢手術のその8割が腹腔鏡で行われているのに対して、大腸がん手術ではその2割弱が腹腔鏡で行われているようです。京都大学では、大腸癌の約8割の方は腹腔鏡下手術を受けていただいています。その適用は、腫瘍の大きさよりも、癌が他の臓器に浸潤しているかどうかで決めています。

開腹手術でも同様ですが、特に腹腔鏡手術は独特の器具を用い、視野展開や空間認識が困難なため、十分な経験のある指導医のもとできちんとしたトレーニングを受けないと事故につながる恐れがあります。医仁会武田総合病院の加藤仁司先生は、胆嚢摘出手術をはじめ腹腔鏡手術では、関西での先駆者の一人です。

腹腔鏡下手術は患者さんにとって、開腹せずにおなかに約1cm程度の穴を数カ所開けて、そこから内視鏡や手術器具を挿入して手術を行います。傷が小さいため侵襲が少なく、早期に回復し入院日数が短くなるのがメリットです。加えて、教育的にも役立っていることです。開腹手術の場合には、術者だけにしか見えないような手術野も、腹腔鏡下手術では、術者はもちろん研修医、看護師、麻酔医などみんながテレビモニターで同じ手術野を共有でき、腹腔鏡による拡大視効果により微細は解剖が理解でき、手術が終わった後も何度も見返すことができるので手技の向上にもつながります。外科教育の変革と言えます。

検査の進歩と治療率6割

大腸がんの治療成績は年々向上しており、現在では治療率は7割前後になっていますし、胃がんの治療率も早期発見や抗がん剤の開発によって上がっています。

大腸がんなど消化器がんの場合には便潜血をし、陽性ならば口と肛門から内視鏡検査を行って早期発見に結びつけることができます。また、武田画像診断センターのPET-CTは当大学でも度々利用しており、癌の進行度を調べるには最適な検査方法です。

武田病院外科特集

外科で扱う症例

胃、大腸が手術の大半を占めています。他には成人ヘルニア、痔の疾患など小外科の手術も多いです。腹腔鏡下手術は胆石を主体とした良性疾患が多いのですが、最近は大腸の手術も行っています。

胆石の腹腔鏡手術は、年間約50例に上ります。その他の開腹手術を合わせると週に10～12件くらい、年間400件以上扱っています。そのうち100～120件くらいががんの手術で、残りは良性疾患と小外科です。他には胸腔鏡による自然気胸の手術も行います。

がんの症例について

胃がんと大腸がんの発生件数では、手術の対象となる胃がんは明らかに少なくなっています。進行した大腸がんに出くわす確率の方が高くなっており、6割方が大腸がんで4割方が胃がんという印象を受けるくらいに変わってきています。

当院では、原発性の肝がんの症例は少ないのですが、転移性肝がんの症例は比較的多く、積極的に切除することで予後が改善し延命効果があるので、当院でも手術を積極的に行っています。取れるものは取って化学療法を行う、ということです。京都大学の消化器外科との連携プレーで、大学から依頼される肝がんの症例も、実績が5年以上あり、症例数で言えば年間20～30件は紹介されてきます。肝動注（肝動脈化学注入療法）は他施設に比べ比較的多く行っています。肝がんの治療に関しては、移植は別として比較的最先端を行っており、成績もよく、大学からも信頼を得ています。手術は大学が行って、

化学療法は当院で、という振り分けが多いです。今後もこのパイプは保っていきたいですね。

隣がんは3ヶ月に2例くらいですから、年間8～10例、この規模の病院にしては多い方でしょう。

肝動注化学療法の効果を示すCT写真



記憶に新しい症例

未だに記憶にあるのが、骨盤内臓全摘術の手術です。S状結腸がんが子どもの頭くらいに成長して、骨盤の中の臓器、膀胱とか前立腺などに強く浸潤しているような状況での手術でした。かなりの進行がんでしたが、長い時間をかけて何とか摘出し、その後も抗がん剤などを使って治療し、現在手術後4年を過ぎていますが再発していません。膀胱と直腸を取り、人工肛門と回腸導管を両方つけるので、患者様にとってはなかなか受け入れがたいものですが、今ではそれを完全に自分のものとして、社会復帰されています。



福山 訓生（ふくやま のりお）

【所属学会等】

日本外科学会指導医
日本消化器外科学会指導医
日本臨床外科学会
日本癌治療学会

【プロフィール】

1968年 京都大学医学部 卒業
1968年 京都大学大学病院にて研修
1970年 島根県立中央病院外科
【愛知がんセンター研修（3ヶ月間）】
1973年 癌研究会附属病院外科研修（1ヶ月間）
1973年 倉敷中央病院外科
1976年 京都大学第一外科
1980年 社会保険小倉記念病院外科
【国立がんセンター研修（6ヶ月間）】
1991年 社会保険小倉記念病院外科 主任部長
2002年 同上 副院長兼務
2004年 医道会十条病院 院長
2005年 康生会武田病院 院長代理



辻 雅衛（つじ まさえ）

【所属学会等】

日本消化器外科学会指導医
日本外科学会指導医
日本外科学会 日本消化器病学会
日本癌治療学会 日本大腸・肛門学
日本乳癌学会 日本救急医学会

【プロフィール】

昭和47年 京都大学医学部卒業
京都大学医学部附属病院外科学教室入局・研修医
昭和49年 工叻中央病院（現宇治武田病院）外科・外科医員
昭和56年 大津赤十字病院外科・第3外科副部長
昭和63年 宇治徳洲会病院外科・外科部長
平成2年 京都私立病院外科・外科医
平成4年 西京都病院外科・副院長
平成6年 高松赤十字病院外科・第3外科部長
平成9年 武田病院外科・外科副部長
平成10年 武田病院外科・外科部長
平成17年 武田病院外科・外科副院長

武田病院外科の特徴

施設や設備においていわゆる大病院と比較しても、見劣りするところは何もないと思っています。常に最新の医療機器を備え、良質の医療技術を患者様に提供できていると自負しています。具体的には、日帰り手術や腹腔鏡手術がその良い例です。一般的な消化器外科を主な守備範囲としていて、胃や腸のみならず、肝・膵臓、食道など多岐にわたって扱っているのも、この規模の病院にしては特徴的といえるでしょう。

外科というのは力仕事と言われがちですが決してそんなことはなく、どちらかと言うと繊細さが求められ、かつ大胆さが必要でもあると考えています。先輩方もよく言われることですが、「勇猛果敢では困る。繊細さは必要だが怖気づいて手が出ないのもまた困る」というのが当外科・救急部のモットーです。

■ 救急指定病院の外科医としての立場

当院には脳神経外科も心臓血管外科もあるので、一般外科がカバーするのは主に腹部救急となります。日中はもちろんすぐに対応しますが、夜間は当直医が担当し、手術がすぐに必要だということで連絡が入れば、30分～1時間以内で手術ができる体制に持ち込むことができるよう、システム化されています。

緊急時の連絡体制としては通常、若い先生3人でワン、ツー、スリーのコールになるようにコール体制を作っており、1人に連絡がつかないからもうだめ、ということはなく、サードコールでもだめなら最終的には私のところへ来るようにしてあります。状態が刻々と悪化しているような場合の手術はもちろん急がないといけません、ある程度時間的な余裕があるものでは、30分～1時間の中で、例えば画像診断を優先するか、確定診断まで持ち込んでから緊急手術をする、という選択肢もあります。CT、MRI、緊急内視鏡など、ハード面では24時間バックアップ体制がとられていますので、緊急の仕事もずいぶんしやすくなりました。

■ 院内での他科との連携

われわれは消化器外科が主な領域になりますので、消化器内科と週に1回は消化器合同カンファレンスを行っています。特に手術症例になるような症例を、内科医の目から見た適用と、外科医の目から見てどのような形で適用できるかをディスカッションして、手術の日程などを決めたり、前回に手術したものの報告や確定診断に関する報告を行ったりしています。



週に1回行われる消化器合同カンファレンス



カンファレンスでは活発な意見交換が行われる

■ 開業医の先生に向けて

開業医の先生に対しては、手術内容などの情報提供をきちんとするようにしています。また、直接病院に電話していただいたら、例えばどんな時間でもご相談に乗れるようになっています。幸い便利なシステムがあり、開業医の先生から病院

に電話が入った場合、院内で携帯している医療用PHSに転送されますが、このPHSから更に個人の携帯電話に転送できるようになっています。従いまして、開業医の先生からの時間外の電話が自宅で受け取れ、直接対応できるので、非常に間違いが少なく重宝しています。開業医の先生にとっても連絡しやすい体制ではないかと思えます。（お話し：辻雅衛副院長）



佐藤 文平(さとう ぶんぺい)

【所属学会等】

日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医

【プロフィール】

1985年 3月 広島大学医学部 卒業
1985年 6月 京都大学医学部附属病院 外科学教室入局
1986年 4月 大和高田市立病院 外科勤務
1989年 8月 市立宇和島病院 外科勤務
1991年 6月 京都大学医学部附属病院 第2外科勤務
1994年 4月 京都桂病院 外科勤務
1994年 9月 国立姫路病院 外科勤務
1997年 4月 大阪府済生会泉尾病院 外科勤務
1999年 4月 康生会武田病院 外科 医長
2003年 4月 同上 副部長
2005年 9月 同上 手術室部長



島袋 隆(しまぶくろ たかし)

【所属学会等】

日本外科学会 日本消化器外科学会
日本臨床外科学会 日本胆道外科学会

【プロフィール】

1986年 京都大学医学部卒業
同年 京都大学医学部附属病院研修医
1987年 浜松労災病院
1990年 NTT京都病院
1993年 京都大学第二外科
1995年 シミズ病院、NTT京都病院
1998年 社会保険小倉記念病院
2004年 8月 医道会十条病院
2005年 9月 康生会武田病院 外科部長



林 隆志(はやし たかし)

【所属学会等】

日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医

【プロフィール】

1987年 京都府立医科大学卒
同年 京都府立医科大学第二外科研修医
1989年 滋賀県湖北総合病院医員
1991年 京都府立医科大学大学院
1995年 京都府立医科大学修練医
1996年 兵庫県明石市立市民病院副医長
1999年 USA, OH, Cleveland Clinic Foundation,
Research Fellow
2002年 康生会武田病院 外科医長

医院・診療所便り

～ 総合病院との連携について～

卒業から開業まで

京都府立医科大学を卒業したのは昭和28年で、インターン後外科に入局し、研修員、助手として4年間の勤務中に厚生技官として国立福井療養所（福井県）へ1年半派遣され、胸部外科の手術を担当しました。その後の6年間は再び大学で助手として消化器外科を専攻しました。また、大学の派遣関係で、京都市内の私立病院で副院長を4年間やり、その時に医師として内科も外科も理解できないと務まらない、という開業医の手法を習得しました。

昭和49年にこの地で開業しましたが、現在のようなビル群はなく、古い日本家屋ばかりでした。老舗の京菓子屋さんなどのお付き合いは、それ以来ずっと続いていますし、祖父母3代にわたって診察しているご家族もあります。

開業のかたわら、下京税務署の嘱託医を35年間担当しましたが、税金問題などで私に変なことになると大問題になるため、ただ、真っ直ぐに勤めさせてもらいました。だからでしょう、優良納税者としての表彰



〒600-8408
京都市下京区
東洞院通五条上ル
深草町 589
TEL: 075-361-1818
FAX: 075-352-3113
診療科目: 外科・内科・
肛門科・皮膚科・泌尿
器科・放射線科

を受けました。

ファミリー・ドクターとして

専門は消化器外科ですが、開業当初から患者サイドのニーズに合わせて、どんな病気でも初診段階はきちんと誤診のないよう判断できるように努めてきました。ホームドクターというのは、一つの診療科について深く知ること大切ですが、多くの病気について浅く広く知識を持つておくこと、というのが私の診療指針でもあります。

かなり高齢になりましたが、今でもかかわった患者さんの病気についての文献を購入して勉強したり、症例検討会などにも積極的に出るようにしています。

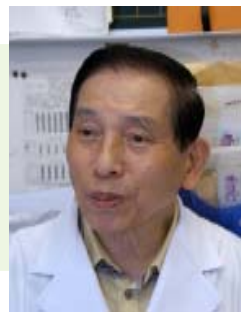
「どんな病気でも診てもらえる」との評判があるらしく、ターミナルや繁華街に近いこともあって、行楽中や歓楽中の急性疾患患者も運ばれてきます。手に負えない場合には武田病院にお願いしますが、なるべく私が治療するようにしています。

武田病院との密な連携

長く開業医をしている関係もあって、京都の多くの病院に知り合いのドクターがいたり、関係をいただいています。中でも、武田病院の場合はJR 京都駅前という立地のほか、当院と最も近いこともあり、開業当初から密接に連携をさせてもらっています。

武田グループには地域医療連携室があり、スタッフも充実していますので、いざという時に、どんな病気の緊急手術などにも、きちんと対応してもらえます。当院とは特に病診連携のベッドを確保してもら

辰巳医院
院長
辰巳 全一



てもいますので、患者さんを送っても、一度も断られたということはありません。開業医の場合、閉院後は私一人しか院内に残っていませんので、手術対応などとても手が回らない場合があります。そういうケースで、深夜に及ぶような緊急性を要する疾患の患者さんを何人も受け入れてもらってもいますので、感謝しています。

ただ、最近是在院日数の削減方針もあって、患者さんの治療が済みばかなり早めに当院での継続治療のため戻して下さるのですが、在宅など応じかねる場合もありますので、武田グループの施設で対応してもらえるようになればベストです。

苦痛を取り除く

私のモットーは患者さんの病気の悩みに耳を傾け、少しでも苦痛を取り除いてあげることです。自分が病気になった時のことを考えると、何とかしてほしいと思うはず

です。
座右の銘としては おかげさまでの謙虚な心 私がしますと奉仕の心 ありがとうの感謝の心 - などを壁に掲げて毎日読むようにしています。

地域医療 連携室から

武田病院地域医療連携室は武田病院の総合窓口といたしまして、検査予約の窓口業務を行っており、患者様の病根の早期発見・早期治療を目指しております。

当院では平成16年5月に睡眠呼吸医療センターを開設後、他科との連携も含め睡眠時無呼吸症候群（SAS）を主とした睡眠呼吸障害に対する診断、治療を行っております。外来受診、一泊入院検査（終夜睡眠ポリグラフィ：PSG）による診断確定、外来での結果説明、CPAP（持続陽圧呼吸）治療開始のための入院検査、治療開始というのがSAS治療における一連の流れとなっておりますが、なるべく迅速に、また入院待ち期間の短縮、入院手続きの簡略化など、患者様ご自身の負担をなるべく少なく、安心して治療に入ってもらえるよう、日々システムの工夫、改善に取り組んでおります。平成17年8月までのPSG検査件数は150件、当院にてCPAP治療中のSAS患者様は約50名にのぼります。

現在では、紹介病院の先生方からお電話にてのPSG入院検査予約、FAXにての保険、患者情報提供をいただいたのち、患者様には外来診察を経由することなく直接入院検査を受けていただくことが可能となっております。検査結果は検査報告書とともに、専門医による「診療情報提供書」としてご報告、またCPAP治療開始後は紹介病院での通院、治療経過のフォローをお受けになっている患者様もたくさんおられます。

なお、検査についてのお問合せ、予約など睡眠時無呼吸センターへお気軽にお知らせいただければ、直ちに対応させていただきます。

今後共、更なる医療連携を目指していく所存ですので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

医療法人 財団 康生会 武田病院

（連絡先）地域医療連携室

TEL 075(361)1352（直） / FAX 075(361)1337

E-mail renkei-e@takedahp.or.jp

検査予約センター

TEL 075(351)1132（直） / FAX 075(361)1337

室長：松山 則彦